１．闇バイトに関わることがないように、私たちができること
　韮崎高校

　アプリやSNSの普及により、闇バイトは普通のアルバイトのように見せかけて、私たち高校生にも近づいています。
　人には、危険な状況でも「自分だけは大丈夫」と思い込む正常性バイアスが働くことがあります。闇バイトは、こうした心のすきにつけ込んできます。
　そこで私は、校内や町中に啓発ポスターを増やし、SNSでも高校生に分かりやすい注意喚起を行うことを提案します。心理学の視点を生かし、身近な言葉で危険を自分事として考えられるようにすることや、相談しやすい空気をつくることが大切だと考えます。
　学校、地域、公的機関、そして私たち高校生が協力し、闇バイトに手を出さないための知識と判断力を育てる仕組みをつくることを提言します。





２．DX による山梨の発展に向けたデジタル人材の育成方策について
甲府工業高校

近年、デジタル技術の発展により、DXは企業だけでなく、行政や教育、医療、農業など幅広い分野で必要とされています。山梨県においても、人口減少や人手不足といった課題を解決するためには、デジタル技術を活用できる人材を育成していくことが重要だと考えます。

そのためには、高校生がプログラミングやAI、データ活用などを学ぶ機会をさらに充実させることが必要です。また、県内企業や大学と連携し、実際の仕事を体験できるインターンシップや体験型講座を増やすことで、デジタル技術をより身近に感じられる環境を整えることが大切だと考えます。

さらに、農業や観光など山梨県の特色ある産業にもデジタル技術を積極的に活用することで、地域の課題解決や産業の活性化につながると考えます。高校生が地域の企業と交流しながら学ぶ機会を増やすことも、人材育成には効果的です。

将来、山梨県で活躍するデジタル人材が増えることで、地域産業の発展や若者の定着につながり、活力ある山梨県を実現できると考えます。





３．わたしたちが考える「ジェンダー平等」について
身延高校

私たちは、一人ひとりが性別にとらわれることなく、自らの可能性を最大限に発揮できる社会の実現を願っています。しかし現在も、「男子は力仕事」「女子は気配り役」といった固定的な役割分担意識や、ジェンダー平等への理解不足が見られます。

山梨県では男女共同参画の推進に取り組んでいますが、性別による固定観念や無意識の偏見は依然として残っています。こうした課題を解決するためには、私たち高校生も主体的に学び、自ら考え、行動する機会を増やすことが重要です。

そこで私は、

①県内全ての高校で年1回以上、ジェンダー平等に関する授業や講演会を実施すること

②高校生同士が意見交換を行い、その意見を県へ提案できる「高校生ジェンダーフォーラム」を開催すること

③SNSや動画を活用した分かりやすい情報発信をさらに充実させることの3点を提言します。





４．若者の投票率の向上について
上野原高校

私は若者の投票率を向上させるためには、学校での主権者教育が重要だと考えます。授業の中で各政党の政策やマニフェストを調べたり、候補者の演説を聞いてどの候補者が当選し、どの政党が政権を取れば私たちの生活がどのように変わるのかをしっかりと学ぶことが必要だと考えます。

また、選挙権を持たない生徒は学校で模擬投票を行い、自身が投票した候補者の当落とリンクさせ選挙の疑似体験をしてみることも有効だと考えます。さらに投票に行きたくなる取り組みとして、懸賞を用意するのも有効ではないでしょうか。投票者の中から極少数名に海外旅行などの豪華な懸賞を用意します。

ここで重要なのは極少数名というところです。大勢に懸賞を用意すると商品の単価が下がり魅力が無くなります。投票するだけで海外旅行が当たる。なんて魅力的でしょうか。また、まだ課題は多々ありますがSNSやオンラインの活用など若者に寄り添った取組みや政治を行うことが投票率を向上させる重要な方法だと考えます。





５．リニア開業後の山梨県の将来像やまちづくりの方向性
　　駿台甲府高校

　リニア中央新幹線の開業により、山梨県民の生活範囲はこれまで以上に広がると考えられます。学生にとっては、県外の学校や塾、大学のオープンキャンパスに参加しやすくなり、進路の選択肢が広がるだけでなく、多様な価値観に触れる機会も増えるでしょう。また、観光客の増加による地域経済の活性化や、山梨県に住みながら県外の大学へ通学するといった新しいライフスタイルも実現しやすくなると期待されます。
　一方で、県外の教育機関を選ぶ学生が増えることで、県内の学校の魅力や競争力の維持、さらには若者の県外流出が課題となる可能性もあります。だからこそ、山梨県は東京を追いかけるのではなく、「山梨ならでは」の魅力を生かした教育環境を整えていくことが重要です。例えば、八ヶ岳や南アルプスに囲まれた豊かな自然や、広い土地を活用したゆとりある学習環境は、都市部にはない山梨県ならではの強みです。リニア開業後は、東京に近い地域を目指すのではなく、「山梨だから学びたい、住みたい」と思われる地域づくりを進めることが大切だと考えます。



